

事業所の概要表

(平成 29年 10月 1日現在)

事業所名	グループホーム だんだん					
法人名	株式会社 クロスサービス					
所在地	愛媛県松山市朝生田町7丁目8-4					
電話番号	089-931-7702					
FAX番号	同上					
HPアドレス	http://cross-service.co.jp					
開設年月日	平成 12年 4月 1日					
建物構造	<input type="checkbox"/> 木造 <input checked="" type="checkbox"/> 鉄骨 <input type="checkbox"/> 鉄筋 <input type="checkbox"/> 平屋 (2) 階建て (1) 階部分					
併設事業所の有無	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 (小規模多機能型居宅介護)					
ユニット数	1 ユニット		利用定員数 9 人			
利用者人数	9 名 (男性 1 人 女性 8 人)					
要介護度	要支援2	2 名	要介護1	1 名	要介護2	2 名
	要介護3	4 名	要介護4	1 名	要介護5	1 名
職員の勤続年数	1年未満	3 人	1~3年未満	2 人	3~5年未満	1 人
	5~10年未満	2 人	10年以上	2 人		
介護職の取得資格等	介護支援専門員 2 人		介護福祉士 5 人			
	その他 ()					
看護職員の配置	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 (<input type="checkbox"/> 直接雇用 <input checked="" type="checkbox"/> 医療機関又は訪問看護ステーションとの契約)					
協力医療機関名	かどた内科 是沢歯科医院					
看取りの体制 (開設時から)	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 (看取り人数: 5 人)					

利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(月額)	42,000 円					
敷金の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 円					
保証金の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 円 償却の有無 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有					
食材料費	1日当たり	1,400 円	朝食:	350 円	昼食:	550 円
	おやつ:	0 円	夕食:	500 円		
食事の提供方法	<input checked="" type="checkbox"/> 事業所で調理 <input type="checkbox"/> 他施設等で調理 <input type="checkbox"/> 外注(配食等) <input type="checkbox"/> その他 ()					
その他の費用	水道光熱費	12,000 円				
	おむつ代	実費				
	理美容代	実費				
		円				

家族会の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 (開催回数: 回) 過去1年間		
広報紙等の有無	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 (発行回数: 6 回) 過去1年間		
過去1年間の運営推進会議の状況	開催回数	6 回 過去1年間	
	参加メンバーにチェック	<input checked="" type="checkbox"/> 市町担当者	<input checked="" type="checkbox"/> 地域包括支援センター職員 <input type="checkbox"/> 評価機関関係者
		<input checked="" type="checkbox"/> 民生委員	<input type="checkbox"/> 自治会・町内会関係者 <input checked="" type="checkbox"/> 近隣の住民
		<input checked="" type="checkbox"/> 利用者	<input type="checkbox"/> 法人外他事業所職員 <input checked="" type="checkbox"/> 家族等
	<input type="checkbox"/> その他 ()		

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

- .その人らしい暮らしを支える
 - (1) ケアマネジメント
 - (2) 日々の支援
 - (3) 生活環境づくり
 - (4) 健康を維持するための支援
- .家族との支え合い
- .地域との支え合い
- .より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

【外部評価実施評価機関】 評価機関記入

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成29年10月23日

【アンケート協力数】 評価機関記入

家族アンケート	(回答数)	5	(依頼数)	9
地域アンケート	(回答数)	4		

アンケート結果は加重平均で値を出し記号化しています。(○ = 1 ◯ = 2 = 3 × = 4)

事業所記入

事業所番号	3870101379
事業所名	グループホーム だんだん
(ユニット名)	
記入者(管理者)	
氏名	金並 恵美子
自己評価作成日	平成 29 年 10 月 8 日

【事業所理念】※事業所記入 相手の事を気にかけたり、かけられたり。一人ひとりが心動く暮らしを選べたい出を語れる人がいるあったかだんだん	【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】※事業所記入 ・運営推進会議の参加メンバーについて、広がりや深まりが持てるような関係作りを事業所として行っていない。 ・新しい切り口で小学校に新聞を持っていく等の取り組みはできたが、まだ参加にはいたっていない。ご家族へは参加を伝達しているが参加には至っていない。 ・ご家族について、事業所と共にご利用者を支える関係作りが出来ていない。 ・一開催できなかった ・外出支援について、ご利用者もご家族も希望されているのに、なかなか行けていない現状がある。また、時々行っている外出支援について、ご家族に小まめな報告が行えていない。 ・同法人のイベントに参加したり、外へ行く機会は増えているが、ご家族への発信はできていない	【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 地域の運動会の折には、前日に職員が会場広場の草引きに参加し、当日は利用者と一緒に参加した。 昼食後、職員は、食器を洗おうとした利用者には、袖口を折あげて「いつもありがとう」と言い、一緒に行っている様子がみられた。 公民館主催のサロンに参加する人は、職員が同行している。車いすでも参加して支援した事例がある。 家族には、年1回アンケートを取っており、出された意見や苦情については、だんだん新聞に家族さんアンケートQ&Aコーナーを設けて回答している。
---	---	---

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I. その人らしい暮らしを支える									
(1) ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	△	日常的に会話から聞き取り、口頭で職員間で伝達している。 ご家族さんへは来所時にご本人の代弁者として尋ねたりしている。	○		◎	私の願いや支援してほしいことについて、個人別記録にまとめて把握に取り組んでいる。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	△	ご本人の行動や表情を確認している。				
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	△	ご家族さんが来所されたとき、会話を持ち、ご本人のことを知るよう努めている。				
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	△	個人記録を日々つけていき、情報を共有している。				
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	×	ミーティング等にてカンファレンスを行い、職員間で本人がどのように感じているのかを意見交換するようにしている。				
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	△	センター方式の用紙を利用して、生活歴やできること・したいこと(できないこと、したくないこと)などを把握に努めている。			◎	本人や家族から聞き取った生活歴やしたいこと、したくないことなどの情報をセンター方式の基本情報シートに整理している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなど等)等の現状の把握に努めている。	△	ご本人の生活歴等をふまえたうえで、今できること、したいことを見つけられるように努めている。				
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	△	日中の過ごし方をご自分で選んでいただいております。まずは本人がしたいようにすることで安心できるように環境を作っている。				
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかり等)	△	関わる職員によって、反応が違う点について申し送り時やミーティングの時に話し合っている。				
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	△	ご利用者のリズムに合わせて入浴や飲水、休む時間を提案している。				
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	×	職員間やご家族等にケアマネから問いかけてさまざまな視点で検討するようにしている。職員それぞれが本人視点で考えられるように研修等に参加している。			○	利用者の支援して欲しいこと、家族の言葉、職員の気付きをもとに、利用者の視点で検討している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	△	普段の職員間の申し送り等で必要な支援について話し合っている。				
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	△	申し送りやカンファレンス等で課題が明らかになることはあるが、実践できないことや取り組みにつながらないケースもある。				
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	△	したいこと、望んでいることを日々の会話から探っており、カンファレンス等で職員間で統一して介護計画に反映している。				
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	定期的なミーティングでカンファレンスを行い、ご本人の様子やケアの方針について話し合っている。	○		○	3ヶ月に1回、職員でカンファレンスして、意見をまとめてケアマネジャーが計画を作成している。カンファレンスに利用者も参加することもある。
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	△	ご本人の思いやご家族の意向を大切に、事業所のできることを提案し、ご家族と相談して支援できるようにしている。				
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	地域の方やご家族にも参加していただける行事をしている。				
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	ミーティングや申し送り等でご本人の現状や問題点を話し合っている。			○	業務日誌の裏に利用者個々の短期目標を記して、職員間で共有している。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	日報に個々の短期目標を掲げ、日々達成できているか記入している。			○	毎日、短期目標の支援状況を出来た○・出来ない×でチェックしている。
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	個人記録にご本人の言われた言葉を記入している。			○	個人別記録に、本人の言葉や行動観察したことなどを記入している。
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	個人記録の気づきの欄に職員が感じたこと気づいたこと等を記入している。			△	個人別記録に職員の気づきを記入する欄を設けているが、支援した内容の記入に止まっている。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	定期的にカンファレンスをミーティング時に行い、職員間で意見を出し合って見直ししている。			◎	見直しが必要な人についてケアカンファレンスを計画し、職員間で意見を出し合って見直ししている。	
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	日々の申し送り時に現状確認を行っている。			◎	ケアマネジャーは、日々の介護記録をもとに、1ヶ月毎に経過記録としてまとめている。	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	ご家族・主治医・管理者等集まっていたいで話し合い、対応している。			◎	身体状況が悪化した時に、家族、医師、管理者で話し合ったケースがある。	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	月に一回のミーティング時に話し合っている。緊急時には、その都度話し合いの場を持っている。			○	月に1回のミーティングで話し合いを行っている。朝、夕の申し送り時に話し合うこともある。	
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	△	ミーティング時に意見交換しているが、指名されたら言うことが多く、活発ではないように思う。					
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	パートさんも参加できるように平日の午前中の時間に行っています。					
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしきみをつくっている。	○	会議記録や申し送りノートに記入し、日々の申し送り時に管理者から伝えている。				○	ミーティング記録や申し送りノートを確認してサインするしきみをつくっているが、全員のサインが揃っていないところがある。
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしきみをつくっている。	△	介助方法等に変更がある場合は手順を写真に撮り展示し分かりやすくしている。			○	申し送りノートで伝達するしきみをつくっているが、全員のサインが揃っているかの確認は行っていない。写真を使って、介助方法を正しく伝える取り組みを行っている。	
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	申し送りノートを利用して情報を伝えている。	○				
(2) 日々の支援										
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	したいことや望んでいることを日々の会話から聞き取って実行できるような提案をしている。					
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	着替えの服選び、入浴の順番、メニュー決めなど、その都度ご本人へお聞きして、決定していただいている。			◎	昼食時、自分でご飯をよそう場面をつくっていた。入浴前、「どの服を着る？」と、利用者と一緒に着替えを選んでいる場面がみられた。	
		c	利用者が思いや希望を表現するように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	△	ご自分で言えない方については、その方の情報を元に、ご本人が望まれているだろうと思われるものを職員が声かけて選んでいる。					
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング、長さ等)	△	お一人お一人のペースで生活していただけるよう支援しているが、ときには職員側の都合になっていることもあると思う。					
		e	利用者の活き活きとした言動や表情(喜び・楽しみ・うらおい等)を引き出す言葉かけや雰囲気づくりをしている。	△	楽しくなるような笑顔が見られるような声かけを心がけている。				◎	職員は、利用者との会話の中で「○○さんは巻き寿司やうどんの手打ちも上手で教えてもらったね」と話したり、「昼から洗濯物をたんでね。○○さんは几帳面にしたものよ」などと話したりしていた。
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	思いをうまく言葉で表現できない方には、選択肢を提示し、その中から選んでいただくようにしている。					
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	×	便所、入浴、何日入っていない等の声かけを他者のいるところで行っていることがある。	○	○	○	外部研修受講者は、研修ノートに内容をまとめて報告を行っている。質問があれば、研修受講者に質問するようになっているが、あまり出ないようだ。	
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉かけや対応を行っている。	○	他の方がいらしゃる時には、ご本人にだけ聞こえるようそっと声かけをしている。			○	トイレへの声かけを耳元で行っている場面がみられた。	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	△	トイレや入浴時には、ご本人の羞恥心に配慮し、前にタオルをかける等している。					
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	居室の出入りには声かけを行い、ご本人の許可をもらってから入室するようにしている。				◎	利用者本人に「お部屋見せてもらって良いですか」と許可を得てから入室していた。
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	ミーティング等で課長から発信し、注意喚起をおこなったり理解できるように説明している。					
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者にも支えをもちあわせてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	ご利用者から教わることも多く、手伝っていたら感謝の気持ちはその時に伝えている。					
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	△	ご利用者同士が自然に集まれば声かけしたり介助したりしている。					
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらおう場面をつくる等)	△	ご利用者の気持ちをくみ取り、気の合う人と同じ席になるよう声をかけたり、配置を工夫している。				○	仲の良い同士が隣りに座れるよう席順など配慮しており、昼食時、隣の人とおしゃべりする様子や隣の人が食べ易いように食器を移動したり、ティッシュを渡したりして世話をする人の様子が見られた。
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	△	トラブル時には基本的には見守り、必要時には職員が間に入り、解消に努めている。ご本人まかせにならないように後で声をかけたりしている。					○

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	△	フェスシート、エピソードノートはあるが一部の人がしかかかっていない。				/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	△	ご本人、ご家族に聞き取り、時々家に行ったり近くまで行っている。					
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	馴染みの美容室に出かけたり、お墓参りに行っている。					
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	居室でゆっくり過ごしていただいたり、誕生日にも来ていただいている。					
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	イベントや行事に合わせて外出している。ドライブにも時々出かけている。	○	◎	○	天気の良い日には、駐車場に出て花壇の手入れや犬の世話などを行っている。 また、近所の公園に散歩に行ったり、掃除を行ったりしている。 ドライブしたり、地域の運動会に出かけたりしている。	
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	していない					
		c	重度の利用者も戸外で気持ちよく過ごせるよう取り組んでいる。	○	体調をみながら近くを散歩したり日光浴をしている。				○	天気の良い日には、駐車場でひなたぼっこしたり、歩行練習したりしている。
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	×	できていない					
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひととき、取り除くケアを行っている。	△	ご利用者の変化は職員間で話し合ったり記録にも残している。					
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上を図れるよう取り組んでいる。	○	認知症について研修を行っている。認知症への理解はあるが実践は対応が多く、維持向上ができていない。					
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場づくり、環境づくり等)	△	ご本人ができることは手伝わず声かけをして見守っている。	○		○		昼食後、職員は、食器を洗おうとした利用者へ、袖口を折あげて「いつもありがとうございます」と言い、一緒にやっている様子がみられた。 コップに飲み物が残っている人に「どうしますか」と聞き、自分で飲み終わられるよう見守っていた。
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	△	一部の人しかできていない。それぞれ好き嫌いは把握している(ご家族から聞いている)					
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	△	得意なことや好きなことをしていただく声かけをしている。	○	◎	○		調理が得意な人に巻き寿司を巻いてもらったり、一緒に調理を行ったりできるよう支援している。 利用者手作りのカレンダーを居間に掲示していた。 男性利用者は、男性職員と囲碁を指すような場面をつくっている。
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	△	地域の行事には参加しているが、実際ご本人たちの楽しみや張り合いがあるかはわからない。					
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つとらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	△	ご本人が選べる人には選んでいただいている。ご家族に選んでいただく場合もある。					
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるよう支援している。	△	髪型や持ち物をご本人の要望に合わせて提案したり保てるように支援している。					
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	選択肢を2つくらいにして選んでもらったりしている。					
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせたその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	年中行事のときには、前の日に服を揃える。盆踊りは浴衣、敬老の日は正装をして写真を撮る。					
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にできずさげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	△	食べこぼしなどはご本人へ声かけご自分でできるように支援したり、ご自分で難しいかたは他者から見えない場所でおこなうようにしている。	○	◎	○		食べこぼしを職員がそっと片付けている場面がみられた。
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	馴染みの美容室に送迎しカットしていただいている方もいる。					
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	△	ご本人らしさを考え、着やすいものを選んで、髪が乱れていたらその都度直している。			○		就寝時、起床時は毎日着替えを支援している。

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	食事は毎日ご利用者と相談しながら、ご利用者と一緒に手作りにしている。				
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	調理、盛り付け、後片付け等の得意な方ができるようにしている。			○	利用者と一緒に調理、味付け、盛り付けを行っている。食器洗いをしている利用者の様子がみられた。
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	ご利用者から教わる料理も多い。時々手延べうどんなどを作っている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	把握しているが苦手なものメニューに入る。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	農家さんから野菜を届けていただいている。			○	農家から野菜を届けてもらっており、旬の野菜を使った献立で調理している。鶏肉が苦手な利用者には、玉子焼きに代替するなどしている。
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	一人一人にあう盛り付けや器を選んでいる。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等を使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	一人一人ご自分の茶碗、箸、湯飲みで食事されている。			◎	茶碗は、ご飯の量に合わせて、湯飲み・箸も個人のものを使用している。汁椀は、個人用のものを使用する人もいる。
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	テーブルに1人づつ職員がついて介助しながら一緒に食事をしている。			◎	職員は、利用者と同じテーブルで同じものを食べていた。キザミ食の人には、むせないよう声をかけたり、介助をしていた。
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	△	時々ホットプレートでお好み焼き、焼きそば、ホットケーキなどを作る。		◎	○	テーブルの上で利用者と一緒に食事の準備をしたり味見を行っており、重度の利用者もみていた。
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通して確保できるようにしている。	△	水分の少ない方には、おかゆやゼリーにして摂取してもらうようにしている。				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	△	お茶に砂糖を入れたり、フルーツをジュースにする。おやつをすすめる。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	同じメニューにならないように記録をみながら調理している。			○	献立表を冷蔵庫に貼って、同じメニューにならないように食材や冷蔵庫の中の材料を見ながら食事をつくっている。
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	毎日調理道具を消毒する。食材は賞味期限をチェックして使用している。				
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	研修で勉強し、歯科医に聞いたり口腔チェックをしている。				
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	△	一年に一回、歯科衛生士間をつくりアセスメントするようにしている。			○	年1回、センター方式のアセスメント表を用いて口腔内の健康状態をまとめ把握している。
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	×	口腔体操など教わっているが日々体操はできていない。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	夕食後は洗ってケースに入れて預かっている。				
		e	利用者の力を引き出ししながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	朝、夕2回は歯磨きをしている。			△	昼食後、介助の必要な人については口腔ケアを支援していたが、それ以外の人については支援していなかった。
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	○	その都度歯科医に診察していただいている。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	ご本人の行動や表情を確認している。下着は体に合う物を使用する。さりげなくトイレ誘導する。				排泄チェック表で状況を確認して、パッドの大きさの変更などについては、口頭で話し合いを行っている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	理解している。運動や食物繊維の多い物を食べる。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	チェック表をつけて把握している。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	ひとりひとりに合ったものを見直しながら準備している。	○		○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	△	ご本人の動きをみながらタイミングをつかんで、トイレへ誘導している。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	個々のパターンに合わせ、声かけ誘導を行っている。				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	使い慣れた物を使用している。外出時昼間と夜に合ったものを選択している。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	ご利用者ひとりひとりに合わせてパンツやパットを使い分けている。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	△	薬に頼らず、カンテンや水分量、運動などで工夫している。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	○	ご利用者の入りたいときに入浴していただいている。チェック表で確認している。	○		○	3日に1回は入浴ができるよう支援している。夕方の入浴を希望する人の希望に沿って支援しているケースがある。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	○	浴室に花を飾ったり、好みの入浴剤をいれるなどしている。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	ご自分で洗えるところは洗っていただき、できないところを職員が介助している。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	男性が苦手な方には必ず女性職員と入浴するようにしている。入りたくない時には別の日にずらすなどしている。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	入浴前と後の健康状態を確認している。				
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	ひとりひとりの睡眠パターンをチェック表で把握している。				安定剤使用者は1名のみで、夜間寝付けられない人には、職員がゆっくり話を聞くなどして安眠につながるよう支援している。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	△	日中の活動量を増やしたりして夜休んでいただいている。				
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	日中の過ごし方や安眠できるような明るさや温度、布団選びにも気をつけている。			○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	個々に好きな場所(居室・ソファ)で休息してもらっている。				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	△	ご家族から電話が入った時、ご本人とお話していただく。				安定剤使用者は1名のみで、夜間寝付けられない人には、職員がゆっくり話を聞くなどして安眠につながるよう支援している。
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	△	手紙やハガキなど書けない方は代筆して出している。				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	希望があるときなど電話してお話していただいている。				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	ご本人に手渡し、居室に飾ったりご自分でいつでも読めるようにしている。				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力してもらおうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	△	母の日にはハガキをだしてもらっている。年賀状はこちらからご家族へ届けている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	×	以前は財布をご自分で持たれていた方が多かったが、現在は持っている方は少ない。					
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につけている。	○	時々近くのスーパーへ出かけている。					
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	訪問販売のパン屋さんには理解していただき協力を得ている。					
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」など一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	×	ご家族と相談して所持されている方もいらっしゃる。					
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	×	ご家族が来所されたときに使用方法等を相談しているが、レシート等の確認にとどまっている。					
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	月に1回家族さんに出納帳と残金を確認してもらっている。					
24	多様なニーズに応える取り組み	a	本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	受診等、ご家族が同行できない場合は、スタッフが同行させてもらっている。様々な方と交流を希望されている方もいるのでボランティア等を受け入れている。	○	○	○	公民館主催のサロンに参加する人は、職員が同行している。 車いすを基参りを支援した事例がある。	
(3) 生活環境づくり										
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮	a	利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	雛人形や五月人形を飾り、ご近所の方にもテラリンを配って見てもらっている。	◎	◎	○	○	玄関は開放されていた。 併設小規模多機能事業所の利用者や職員の出入りがあり、出かける時に声をかけてくれた。
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を持っており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものか置いていないか風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそっくりな感じになっていないか等。)	○	花を飾ったり、手作りのカレンダーに予定を書き込んでいる。	◎	◎	◎	◎	共用空間は清潔に保たれていた。 テレビの前のソファには、ひざ掛けや毛布を用意しており、利用者は、テレビをみたり横になったりして過ごしていた。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	×	夜勤者が毎日掃除しているが、行き届いていない場面もある。				◎	不快な音や臭いはなく、掃除も行き届いていた。 いすを引く音に配慮して、足にテニスボールを履かせていた。
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	職員がフロアの近くで食事を作っている。CDをかけたフロアで過ごしやすいようにご利用者へ確認しながら環境づくりをしている。				○	画用紙や鉛筆など利用者の手の届くところに用意して、塗り絵などを自由にできるようにしている。 月ごとにカレンダーを手作りして掲示している。浴室の壁には、風景画を飾り、季節ごとに替えている。 玄関に季節ごとに、お雛様や兜を飾ったり、花壇には、花や野菜を育てている。
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	いろんな所にソファを置いて好きなところに座ってくつろいでいる。					
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	○	浴室の入り口に入っているか空いているかの札をつけている。					
27	居心地良く過ごせる居室の配慮	a	本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	居室にはご本人の使い慣れたものを置いている。	○		○	○	家族の写真や誕生日カードを飾っているところがみられた。 ベッドから転倒の心配がある人については、ベッドの下にじゅうたんを敷いていた。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	△	花の好きな方は居室から直接花壇の方へ出られるようにして水やりしてもらっている。			◎		車いすを自走できるようにフットレストをはずしていたり、ブレーキは、ラップの芯を使い操作しやすいようにしていた。 タンスの引き出しに上着、靴下などわかるようラベルを貼っている居室がみられた。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	△	職員間で話し合い、危ない物を近くに置かないようにしている。(職員用の丸椅子等、ご利用者が間違えて座らないよう都度片づけている)					
		c	利用者の活動意欲を醸成する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	△	ポットに沸かしたお茶を用意しており、好きな時に飲めるようにしている。ぬり絵も好きな時に出してできるようにしている。					
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	玄関の鍵は夜間のみかけている。鍵をかけることが虐待のひとつであることを研修等で学び理解している。	◎	◎	◎	◎	玄関は開放していた。 職員は法人内、外の研修に参加して勉強している。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	ご家族に説明し、それぞれ居室にも鍵をかけず、ご本人が自由に出入りできるようにしている。					
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	△	夜間混乱のある方については、夜間庭側の戸に鍵をかけさせていただくこともあるが、入口の出入りは自由にできるようにしている。					
(4) 健康を維持するための支援										
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	△	個人記録にて既往症等について理解に努め、変化のあったときや留意点については、その都度職員間で話し合っている。					
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	△	変化や異常についてはその都度職員に伝え、備シートや申し送りノートに記入して把握に努めている。					
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等いつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	訪問看護ステーションの看護士さんや往診の医師にFAXや電話等で指示をおいたり、来所いただいで見ていただける体制がある。					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師を受診できるよう支援している。	○	入居前にかかりつけ医をお尋ねし、急変時にはすぐに連絡を取っている。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	ご本人、ご家族のご希望の病院を受診している。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	通院や往診について必要なことはその都度ご家族にも連絡している。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	入院時には入院先に情報を提供している。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	退院前には退院後にどのように生活していくのか等について入院先の方と情報交換し話し合い受け入れている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	△	協力医が往診に来ており、協力医を通して入院を行うことが多い。また、協力医や訪問看護ステーションへ入院後の様子も伝達するようになっている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	毎週1回訪問看護士さんに来ていただき、健康チェックをしてらいたアドバイスいただいたり、かかりつけ医とも相談している。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	同法人の看護ステーションが近くにあり急変時等にはすぐに来ていただける。かかりつけ医にもFAXや電話等ですぐに連絡できる体制がある。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	毎朝バイタルチェックを行っている。変化があれば看護士さんやかかりつけ医等に指示をあおいている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	処方された薬の説明書を読んで理解に努めている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	薬ラックを作り、毎食後薬の服用の確認ができるようにしている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	△	排便の有無、便の状態などを見て下剤の調節等を行っている。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	△	特に薬が変わった時にはご本人の様子等を観察し職員間で話し合っている。				
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	△	随時カンファレンスを行い、主治医、ご家族、管理者等で話し合い方針を決めている。				状態悪化時には、家族、主治医、管理者で話し合いの場を持ち、方針を決めている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	△	随時カンファレンスを行い、主治医、ご家族、管理者等で話し合い方針を決めている。	○		○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	状態によって適時対応を変えている。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	△	その都度話し合い説明し理解してもらっているようにしている。				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	△	より良い暮らしができるよう話し合い、ご家族の希望に従い支援している。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	△	チームで支援していることを伝え、ご家族の生活状況を希望に合わせて支援するようにしている。お客様のようにならないように一緒にケアをすることもある。				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	毎年研修で学び、研修に行った職員は他のスタッフに研修内容を伝え、学んでいる。				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	△	感染症について研修を行い学んでいる。				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	△	市役所からのFAXを見たりインターネットでの情報等、職員間で共有できるよう話し合っている。				
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	△	感染チェックリストを作成しており、職員間でもチェックしあうようにしている。また、事業所間で情報交換をしている。				
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	排泄介助後は石鹸で手を洗い、清潔に気をつけている。外出から帰ってきたときは職員は勿論ご利用者さんにも手洗いを徹底している。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	ご家族に相談したり、支援についてお願いしたりして共にご利用者を支えている。				新年会や花見には家族全員に案内するが、参加は1～2組に止まっている。 家族には、2ヶ月に1回、だんだん新聞と、担当職員が利用者の様子を手紙に書き、写真も同封して送付している。 行事時の様子や外出の様子を新聞に載せている。職員の異動があった時と、年始にはだんだん新聞に職員紹介を載せている。 家族の来訪時には、管理者は駐車場まで見送りで、「気がかりなことはないですか」と声をかけている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(茶や甘い雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	ご都合の良い時に訪問していただいている。				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	△	行事には案内を出し参加していただいている。(新年会、花見、運営推進会議等)	○		△	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たよりの発行・送付、メール、行事等の録音、写真の送付等)	◎	2か月に1回手紙や写真などをご家族にお送りし、ご利用者の様子を知らせている。	○		◎	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	△	来所時にご家族からお話を聞いている。				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	△	入居時にはご家族からも聞き取りを行いご本人との関係把握に努めている。また、ケースによってはご本人との間に入って調整することもある。				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	◎	だんだん新聞で知らせている。(2ヶ月に1度ご家族にお送りしている)	○		○	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	×	案内等をだすこともあるが、参加に至ってない。				
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	△	必要時にはご家族に説明し理解を得るようにしている。				
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的にやっている。	△	来所時には声かけをし、気になっていること等を尋ねている。			○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	△	契約前にご家族やご本人様に施設に来ていただき、見学していただくようにしている。				/
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	重度化により「看取りは病院で」と言われ退去された方もいらっしゃる。退去時にはカンファレンス等を聞き情報を共有するようにしている。				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	重要事項を変更するときにはご家族へ連絡し、面談にて説明をし、同意書を送っている。				
III. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域、事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	△	移転してきたので、「だんだん」という名前は知ってくださっている。		◎		地域行事には利用者が参加できるように支援している。運動会の折には、前日に職員が会場広場の草引きに参加し、当日は利用者と一緒に参加した。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	△	地域の行事(運動会、いきいきサロン、盆踊りなど)にご利用者が参加している。		◎	◎	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	△	外に出て行こうとされたご利用者について、ご近所の方が連絡して下さったことがあった。				
		d	地域の人気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	△	なかよしカフェ開催によって地域の子供さんやお母さん方にも参加していただける場面がある。				
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	ご近所の方が野菜を届けてくださったり、ホームで作ったもの(おはぎ、巻き寿司など)を届けてたりしている。				
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	△	行事等の案内チラシをご近所にも配り参加していただくなどしている。				
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	△	入居時に把握していても、入居後に継続することが難しい方もいる。墓参りに時々一緒に行く方はおられる。				
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を深める働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー、コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	△	近くのスーパーにご利用者と買い物に行ったり、馴染みの美容室に送迎したりしている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	2ヶ月に1回の開催しており、地域の方や事業所職員等に参加いただいている。	○		○	利用者、近所の人、民生委員の参加は毎回ある。家族には案内をしているが、参加が少ない。	
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	ホームでの行事等の報告を行い写真やご利用者の作品等を見ていただいている。			○	会議時に、利用者やサービスの実際、外部評価結果について報告しているが、目標達成計画の内容や取り組みについては報告していない。	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	地震や火災時など応援してもらう話し合いをしている。			◎	○	防犯や防災について話し合ったり、「なかよしCafe」の開催について報告しているが、今後は、意見や提案などを取り組みに活かしたり、その状況や結果についても報告できるよう取り組んでほしい。
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	△	折にふれて議題にしており、状況に合わせて開催方法を変更している(同法人の他事業所を一緒にするので時間等)			◎		
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	市、地域の方等参加していただいた方に議事録をお送りしている。また議事録ではないがホームページに内容や写真を公開している。					
IV.より良い支援を行うための運営体制										
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	△	フロアに理念掲示し、理念に基づいたケアができるよう掛けている。					
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	△	理念を見えるところに掲げているが、伝える場面は少ない	△	○			
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者:基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	受けたい研修を職員が選んで受講できるようにしてもらっている。					
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	職員の目標を管理者と本人が共有し、目標に向かって取り組めるようにしている。また、面談時には取り組みの進捗を確認している。					
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	人事考課や自己申告表など職員が発信できる場面をつくるようにしており、また発信を促す説明をおこなっている。					
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	一年間の社外・社内研修計画を立てており、希望の研修に参加できるように体制をつくっている。					
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	面談や随時に声をかけており環境づくりに取り組んでいる。	○	◎	○	年1回ストレスチェックを行っており、結果によってカウンセリングを受けるしくみがある。	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	研修により理解に努めている。					
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	申し送り等で話し合っている。					
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	年に数回、虐待の勉強会に参加し理解を深めている。また代表者はメディア等で最新の情報を得るようにしている。			◎		法人内・外部研修で勉強しており、行為を発見した場合は不適切なケア報告書を記入して、ミーティングで話し合っている。
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	声をかけて一緒にケアを考えることを大切にしている。					
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	年に数回、虐待の勉強会時に身体拘束を学んでいる。					
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	ミーティング時や申し送り時にあれっと思うことは発言するようにしている					
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	実際のケースはないが、カンファレンス等を開催し検討することとしている。					
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点を含め理解している。	○	成年後見人制度を利用されている方もいらっしゃり、制度について学んでいる。					
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	△	現状を十分に確認できていない。					
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるように、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	△	運営推進会議等に案内をだすも、実現できていない。					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	△	急変時のマニュアルを作成している。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	研修により学び、学んだことは持ち帰り、他の職員にも伝えている。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手前前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	マニュアルがありそれに従って対応している。ヒヤリハットに記入し、事故にならないよう努めている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	リスクについてはミーティングや申し送り等で話し合っている。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	苦情に対するマニュアルがあり、それに沿って対応している。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	必要がある場合は、市へも報告している。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	ぼたん(犬)の毛について苦情があり、犬の毛ときや玄関掃除をこまめにしている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	相談窓口をご利用者ご家族に伝えている。			○	運営推進会議に参加する利用者は伝える機会がある。しかし、利用者が意見や要望を出すことは少ないようだ。 個別に聞き、法人の秋の集いの際にうどんを打って振る舞うなど運営に参加する人もいる。 ○ 運営推進会議に参加する家族は伝える機会がある。年1回アンケートを取っている。 出された意見や苦情については、だんだん新聞に家族さんアンケートQ&Aコーナーを設けて回答している。 ○ 朝・夕の申し送り時に意見を聞いているようだ。年2回、人事考課があり、面談して意見や提案を聴いている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	△	相談窓口を設けているが、契約時のみの説明で伝えられる機会まではつくりきれていない。	○			
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	△	その都度ご家族からの要望をお聞きしている。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	面談やミーティング等に課長も参加し、随時に代表者へ報告している。直接話をする場面があったり、人事考課等で確認する場面がある。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	ミーティングや面接等で意見を聞いてもらっている。				
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	年1回サービス評価表を個々に記入し、ミーティング時等に意見交換している。				外部評価結果を報告しているが、目標達成計画については、報告していない。 今後の取り組みのモニターをしてもう取り組みは行っていない。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	外部評価の結果もミーティング等で伝えてもらい、話し合う機会をもっている。				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	外部評価の結果やご家族アンケートの結果を受け止め改善に努めている。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	△	運営推進会議で参加して下さった方々にご助言いただいている。	△	○	×	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	△	2ヶ月に1回の運営推進会議で活動報告している。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	△	マニュアルを作り職員間でそれを共有している。				町内会で、防災まち歩きが開催された際には、管理者が参加した。 ○ 運営推進会議時には、防災、防犯についてなどを議題に話し合いを行っている。 いざという時には近所の人の協力を得られるようになっている。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	2ヶ月に1回、避難訓練を行い、夜間の想定もして訓練している。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	非常食料の点検をし、消費期限間近のものについては使用し、職員間で味見などして話し合っている。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	避難訓練を行っている。消防署の方に来ていただいたり、近隣の方にも声かけ参加していただいたりしている。	△	○	○	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	地域の方にも参加していただいて、防災訓練を行っている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	△	管理者が地域の学校や保育園とつながるように取り組んでおり、地域の方へ理解が深まるようになっている。				法人としてはあるが、事業所独自で相談支援を行う機会は少ない。 学生の実習を受け入れている。管理者は地域の小学校の入学、卒業式に出席したり、記念行事に出席している。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	△	随時に声をかけたり、2階の小規模を利用している方とも繋がりを持ち、ご利用者・ご家族が様々な人へ相談できるように配慮している。		○	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	○	近くの保育所と一緒に「なかよしカフェ」を開催し、近隣の方とも交流している。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	学生の実習の受け入れやボランティアの受け入れをしている。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	防災訓練の案内を地域にも発信し、消防署の方にも来所していただいていた行っている。			○	